



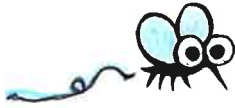
# わんにゃん新聞



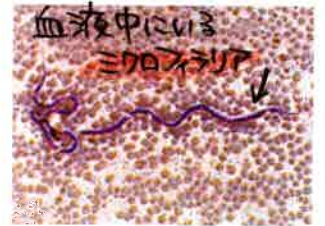
文責：古賀



皆さん、こんにちは！  
やっと暖くなり、日中は暑いくらいですね。  
そろそろ予防のシーズンになりました。  
今回のテーマは「フィラリア」です。



## フィラリアとは？



フィラリアとは蚊が運んでくるやっかいな虫のことで

蚊が運ぶのですがから、初めは顕微鏡で見ないと分からないくらい小さい  
(ミクロフィラリアと言います)ですが、**血管を通して心臓に寄生します。**

成長すると体長 **15 cm~30 cm** になり、愛犬・愛猫達の小さな心臓の働きを邪魔します。



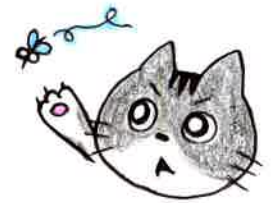
心臓にフィラリアが寄生してしまうと  
**血液の通り道は狭くなります。**

心臓は道が広がったときと同じ量の血液を送るために、  
たくさん働かなくてはならなくなるのです。(肺高血圧症)  
この心臓への負担が大きくなって呼吸困難になったり、  
お腹や肺に水が溜まったり、狭い道を無理やり通るために  
血液中の赤血球が壊れてしまい、貧血になったり、  
血尿が出たりします。そして多くの場合、**死んでしまいます。**

すでに感染しているワンちゃんもこれ以上体内のフィラリアが増えない様に予防は必要です。

成虫は駆虫できませんが、新しく生まれるフィラリアの子孫と  
外から蚊に刺されて入って来るミクロフィラリアを駆虫しましょう。

## ネコちゃんも油断大敵!!



犬で有名なフィラリア症ですが、**実は猫にも寄生します。**

犬よりも身体が小さな猫は症状が大変おもしろく、急速に衰弱して死に至ります。

**猫の突然死がフィラリア症だった**という例もありますのでネコちゃんも予防をお勧めします。

犬の場合、当院ではフィラリア薬は錠剤ですが、

猫ちゃんは**ノミとフィラリア**、回虫やミミヒゼンダニの駆虫も一緒にできる  
**スポットタイプの『レボリューション』**で行います。



### 西川動物病院

TEL: 0940(43)0200

HP: <http://www.on-vet.com/>



# フィラリア予防薬の効果

フィラリア予防薬は、ノミダニ予防薬のように『1ヶ月間効く』のではなく、  
1ヶ月間体内に貯めていたマイクロフィラリアを飲んだその日に駆虫します。



なので、蚊が出始めてすぐ予防薬を飲ませるのではなく、  
それから1か月後に予防薬開始!! (この地域では5月末から)  
蚊を見かけなくなったからといって予防薬を飲み終えてはいけません!!

最後が一番肝心です。9月や10月に投薬をやめてしまったら、  
その前の月(8月や9月)に体内に侵入してきたマイクロフィラリアはぬくぬくと育って  
3・4カ月後には恐ろしく立派な成虫になってしまいます。

今まで予防してきたのもムダになってしまいます…そんなことにはならない様に!!

5月末から11月末(蚊を見なくなって1か月後)までしっかり予防しましょう!!

もちろん、室内飼いでフィラリア予防は必要ですよ。

私たち人間でも家の中にいて蚊に刺されますよね。犬猫だけ刺されていないはずはありません。

実際に、室内飼いでフィラリア予防しなくて感染したワンちゃんも多数います。

ANIMALトリビア: シロワシの土肌の色は黒!!

## 塚崎トレーナーのしつけのいろは

### 《第7回：散歩中の問題行動》

文積：塚崎

だんだんと気候もよくなってきて、お散歩に行く機会も増えてきたのではないのでしょうか。

今回はお散歩中によく見かけるありがちな問題行動について書こうと思います。

その行動とは、犬が何か夢中になるものを見つけて、その場から動かなくなっていますことです。

声をかけても、リードを引っ張ってもビクともなくて困ったことが

ある人もいないのでしょうか？

このとき、犬はどのような状態なのでしょう？

- ① 飼い主さんの声は聞こえているが無視している。
- ② 夢中になりすぎて飼い主さんの声が耳に入っていない。



この場合、②であることがほとんどです。

聞こえてもいない命令をきけるわけがないので犬に悪気はまったくありません。

ではどうするか？ですが、まずは犬の気持ちになっているモノ(ニオイなど)から断ち切ってあげて、  
(犬の名前を呼ぶ、手をたたく、足踏みをして音を出すなど工夫してみてください)

飼い主さんの声が聞こえる状態にします

→ 気持ちが切れた瞬間にすかさず声をかけると同時に歩き出す、という方法を試してみてください。

この「気持ちを断ち切ってあげる」ということは、犬が興奮して手がつけられないといったときに  
とても有効な方法ですので、ぜひ覚えておいてください。

補足ですが、犬の気がすむまで一緒にその場にじっとしているという事だけは絶対にしないように!!

→ 犬のほうがリーダーであると認めてしまうこととなります。